

Hello! FUJISEI

No.245

たばこの税負担率は6割を超えます。しかし、喫煙が健康に良くないと分かっているにもかかわらず、受動喫煙の悪影響を知っているにもかかわらず、愛煙家にとっては禁煙のハードルは高いようです。しかし、喫煙は、さまざまながんの原因の中で、予防可能な最大の原因です。

厚生労働省の「平成25年国民健康・栄養調査結果の概要」によると、現在習慣的に喫煙している人の割合は19.3%でした。性別にみると、男性32.2%、女性8.2%であり、男女ともに10年間で減少傾向にあります。年代別にみると、最も高いのは男性は30歳代の44.0%、女性は20歳代の12.7%となっています。

現在習慣的に喫煙している人のうち、たばこをやめたいと思う人の割合は24.6%で、平成23年と比べて男女とも減少しています。たばこの本数を減らしたいと思う人の割合は、33.5%であり、平成23年と比べて増加しています。

過去1か月間に、自分以外の人が吸っていたたばこ

喫煙、受動喫煙

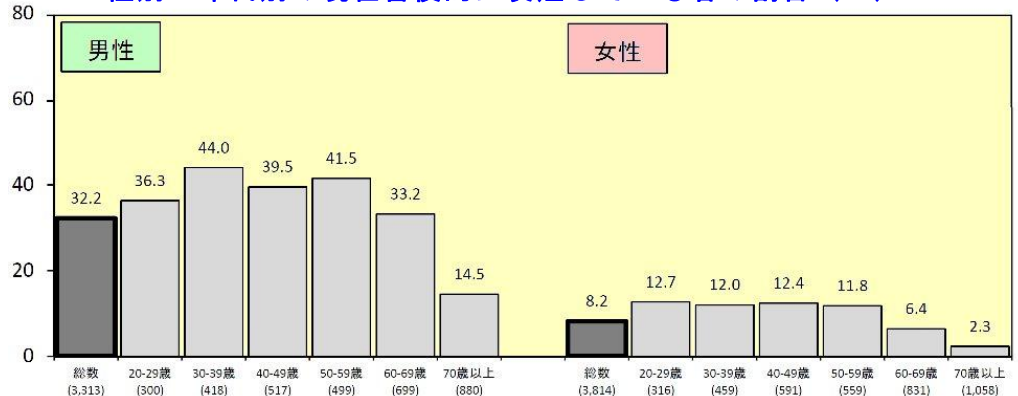
まだまだ高い喫煙率 男性32.2%、女性8.2%

の煙を吸う機会（受動喫煙）を有する人（現在喫煙者除く）の割合は、平成20年と比べると、「学校」「遊技場」を除くすべての場所において減少しています。しかし、「飲食店」「遊技場」「職場」において受動喫煙の割合は3割を超えており、依然

として高い状況にあります。

受動喫煙防止対策を望む場所として、非喫煙者では「路上」が42.7%、「飲食店」が42.1%で、次いで「子供が利用する屋外の空間（公園、通学路など）」と回答した人の割合が高く、36.9%でした。

性別・年代別の現在習慣的に喫煙している者の割合（%）

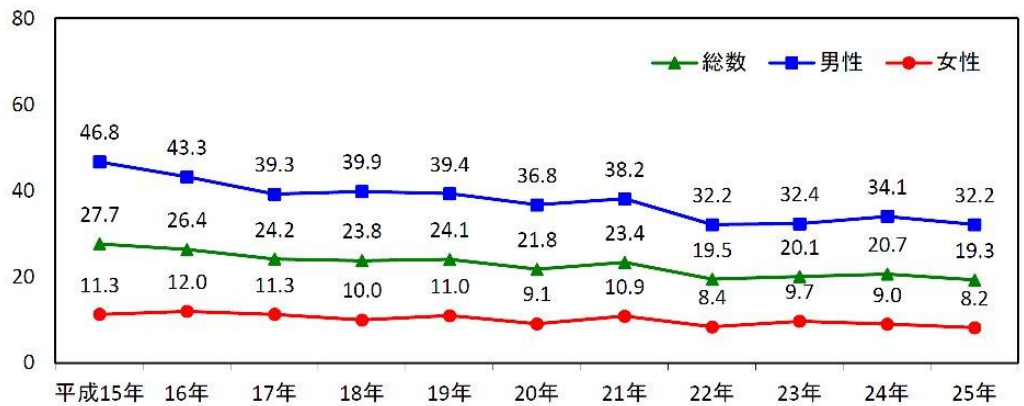


※「現在習慣的に喫煙している者」とは、たばこを「毎日吸っている」又は「時々吸う日がある」と回答した者。

なお、平成24年までは、これまでたばこを習慣的に吸っていたことがある者*のうち、「この1か月間に毎日又はときどきたばこを吸っている」と回答した者。

*平成15～22年は、合計100本以上又は6か月以上たばこを吸っている（吸っていた）者。

現在習慣的に喫煙している者の割合の年次推移（20歳以上、%）



厚生労働省「平成25年国民健康・栄養調査結果の概要」より

AIG富士生命保険株式会社

〒105-8633 東京都港区虎ノ門4-3-20

神谷町MTビル